

どんぐり山行通信 赤久縄山

第52号

2010年4月17日(土)

雪後曇り時々晴れ

参加者 15名

あかぐなやま (1522m)



バスは雪の降るなかを神流湖に沿ってうねうねと登っていく。白いまだら模様の山を背景に雪の綿帽子をかぶった桜が映える。湖面は緑と藍に染め分けられている。バスは一旦止まってチェーンを装着する。その間景色を楽しんだり雪と戯れたりする。雪をかぶったしだれ桜をバックに自称美女軍団の写真を撮ろうとすると「花よりもきれいに」と注文がつく。真実を曲げろというのだろうか。だが命令に



は絶対服従だ。緊張と怒りにシャッターをおす指先が震える。手ぶれ補正は機能しない。自分の顔は自分で責任を持ってもらいたいものだ。結局今日の山行は中止して近くの散策に変更する。この



通信のタイトルも山行通信から散歩通信へと変える。間もなく雪は止む。下久保ダムの下の三波石峡は薄緑に白い筋の入った巨岩、奇岩の三波石が点在し、チラホラと花が咲く早春の溪流だ。散策といっても足場が悪くまた鎖場もあって山に登れなかった分をカバーしてくれる。その後、桜山公園へ花見に行く。池の周りで弁当をひろ

るげて桜を楽しむ。公園の頂上から、西の空には今日登れなかった赤久縄山が西御荷鉾山と並んで灰青色の姿を見せている。今日がだめなら明日があるさと自分に言い聞かせる。帰りのバスでは皆、泣き疲れた子供のように寝入る。今日はコンビニに立ち寄ることもなくアルコールフリーのさっぱり気分であ家に向かう。さあ、明日は七峰縦走。

*** 余談ですが翌日の七峰縦走 ***



小川町駅受付では、佐藤さんと北見さんも元気に姿を現したそして出発直後杉山さんは駆け抜けるように追い越して行く。最初の官倉山の隘路では1時間半待ちの行列。昨日の雪で笠山、堂平山、大霧山はショートカットされ、コースは、花の咲く里山風景の萩平から一旦バス道に降りて粥新田峠へ登り返す約30kmに短縮された。私(伴)は中一の孫と一緒に暮れなずむ寄居の鉢形城址へとようやく6時にたどり着く。朝6時40分からの歩行で足が痛いよう。